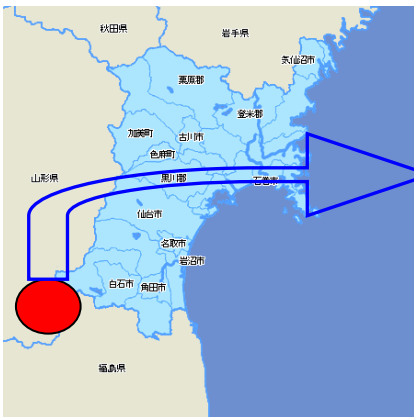
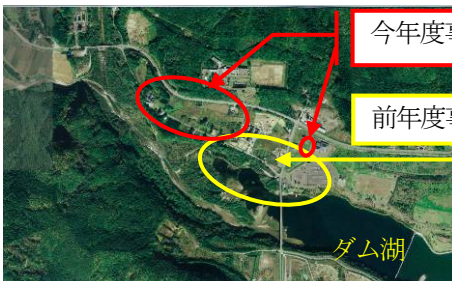


平成21年度 「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	「未来に向けた関・矢立地区の持続可能な国土開発事業」
対象地域	宮城県刈田郡七ヶ宿町関・矢立地区
対象地域の概要	  ●七ヶ宿町 【位置図】 □ 関・矢立地区  今年度事業実施区域 前年度事業実施区域 ダム湖 【ダム湖に沈んだ町に隣接する集落】  【矢立地区の放置された農地】
提案内容の概要	水源地を適正に管理する為新たなコミュニティの場づくりを中心に行ってきた前年度の活動の範囲を膨らませ、山村の「働き」を学ぶ 1-①体験活動の推進と 1-②拠点づくりの拡充を「山の学校」という形で実施し、地域間交流を図りながら対象地域の国土を保全していくものである。
提案する活動の内容 (1) 地域の課題	県民 183 万人の水瓶として水質日本一を目指す我が町は国土保全に努め、水源地を適正に管理していかなければならない。先日、地域住民に対し実施したヒアリング調査の中で「住む人たちの仕事が変わったために地域のつながりが無くなっていった」という回答があった。例えば稲作であれば農繁期にはネコの手も借りたい。地域に住む人たちが同じ仕事を営んでいた時期には、地域の人たちは暮らしの中で助け合い、支えあってきた。日常の中にコミュニティが存在し、同時に地域の環境が保全されてきたのである。地域の担い手が消え、山村は都会同様、個人中心の社会へと変化しつつある。「働き」の形と同様に消費の形も変化を遂げた。暮らしの中で生活する人たちのコミュニティを支えてきた商店も次第に姿を消し同時に人々が集う場が失われている。「働き」の変化はコミュニティばかりか農地や森林をも荒廃に導いている。この地域に人々が住み続け、古くからの「働き」を取り戻していくことは国土の維持管理において大変重要なことである。この地域の古くからの「働き」、つまり共同体を新たな協働体に再生する取り組みは国土の維持管理にも大変重要である。
(2) 活動内容の案	活動1 : 「山の学校」体験活動の推進 内容 : 古くからある「働き」と先人達の知恵を学ぶための体験活動の実施によって副次的に環境保全につながっていくことを同時に学ぶ、意識した自然活用 ①散策路での山の手入れ 手入れした木材の運搬、運搬具の製作 ②山の手入れによって発生する木材や枝などを燃料として直接利用する（かまどや風呂） ③間伐材の炭焼き ④炭の燃料としての利用（いろり） ⑤土壌改良⑥水質改善を目的とした炭の活用（散策路・用水路・耕作放棄地での炭の利用） ⑦休耕田での耕作体験、除草、収穫、食 ⑧耕作放棄地でのそば栽培、除草、収穫、食

	活動2 「山の学校」拠点作り
	内容 日本の台所は循環型社会の手本といえる。昨年度開設した「寺子屋」を拡充し食の場づくりと水場の利用検討を行うもの。 ①場内にプレハブを設置し薪や枝を直接燃料として利用するかまどをつくり又、炭を囲んでいり端で食することを通して地域間交流を図る食の場づくりを行う。 ②実際に水路から水をひいて暮らしに利用し排水する流れを体験することで水環境への意識を高めてもらうことを目的に水路から水をひいて水場を作り台所の水として利用する。又、五右衛門風呂としての利用検討も行う。
応募団体名	特定非営利活動法人 水守の郷・七ヶ宿
リンク	Mizumori7.org
部局／担当者名	事務局 海藤 節生
連絡先	宮城県刈田郡七ヶ宿町字根添26番地1 0224-37-2171
推薦市町村名	宮城県七ヶ宿町